

台風・地震

災害にそなえよう

今年も台風シーズンを迎え、災害が心配されます。また、日本は世界有数の地震国です。当町もいつ地震に見舞われるかわかりません。

「備えあれば憂いなし」のことわざどおり、日頃の準備が必要です。もう一度災害にそなえての正しい知識を、再確認いたしましょう。

◇台風にそなえて◇

当町の場合は、台風が直接上陸するのはまれです。しかし、昭和四十六年には、あのような悲惨な災害が発生しております。

被害を最少限に止めるために、日頃から準備が必要です。「ふだんの心構え」

○ 家のまわりの溝や下水を整備し、強風にそなえて家屋や塀を補強しておく。



昭和46年の災害現場

- 避難場所を確かめておく。
- 懐中電灯、ローソク、トランジスタラジオ等を、用意しておく。

「台風が近づいたら」

- テレビやラジオで気象情報をよく聞いて状況を判断する。
- 衣類や貴重品をひとまとめにして、飲料水を水筒に入れておく。

「避難するとき」

- 火の始末や戸締りをしておく
- 女性や子ども、老人は早めに避難させる。
- 警察官や消防団員等の、指示に従う。

慶弔関係

七月三十一日現在届出(敬称略)

◎ご結婚

おめでとうございます

〈部落〉 〈氏名〉

- (篠原) 鶴沢利夫—鶴沢 和子
 - (篠本) 行方輝旺—山崎 好江
 - (篠本) 石井光男—寺嶋 静江
 - (関) 実川 速—小田切幸子
 - (関) 清宮 隆—金井 利江
 - (新井) 川野吉雄—伊藤千鶴子
- ◎お誕生
- 〈部落、父親、続柄、赤ちゃん〉
 - (宮内) 鈴木秀雄 二男 尚
 - (木戸) 畔蒜 毅 長男 義文
 - (篠本) 越川初美 二男 孝裕
 - (小川台) 鈴木清一 二女 敏江

◇地震にそなえて◇

町では地震に備え、各関係機関と連絡をとりながら、被害を最少



限に止めるため万全を期しております。しかし、これだけでは、満足できません。台風には備えると同じように日頃から心構えが必要です。

「地震が起ったら」

- あわてて外にとび出さない。
- 何よりもまず火の始末をし、火が出たら消火する。
- 運転中のドライバーは、車を道路の左側に寄せて停車する。

「避難するとき」

- まず落ち着いて行動すること。
- 乗り物はやめて、徒歩で避難する。
- 持物は、最少限のものにする
- 狭い路地、へいざわ、がけ下川べり等には近寄らない。

「避難場所」

- 各小学校体育館
- 中学校体育館
- 農協各支所野菜集出荷場
- 宝米野菜集出荷場

町の状況

〈8月1日現在〉

人口	男	5,735	(0)
	女	5,940	(+ 5)
	計	11,675	(+ 5)
世帯		2,782	(+ 4)
		()	内は前月比